



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 小中合同引き渡し訓練

5月15日(月)、大きな地震が起きたことを想定して小中合同引き渡し訓練を実施しました。保護者の皆様には、訓練に参加していただきまして、ありがとうございました。

緊急事態を知らせる大きなサイレンの音を響かせることから訓練がスタートしました。揺れがおさまるまで、自分の体、特に頭を守るために子供たちは机の下にもぐりました。揺れがおさまったことを確認し、学年の代表が、自分の学年の人数(出席者数・欠席者数交流に来ている支援学級の子供の数)を把握して、職員室に報告に来ました。全学年の情報を職員室で共有しました。

全員の無事が確認できたところで、私から全体に放送にて話をしました。内容は次のとおりです。

- ① 2011年3月11日、本校に私自身勤務していた際に東日本大震災が起きたこと。座間でも大きな揺れが長時間続き、下校後に教室に残っていた数名の子供たちは怖がって、泣いて教室の中をうろうろ歩いていたこと。
- ② 地震が起きた時は、誰もが怖くて慌ててしまうことが考えられること。だからこそ、もしそういう状況が起きたら、「自分の命は自分で守るんだ」と自分に話しかけてほしいこと。「落ち着こう、自分にできることは何かな」と自分と話をしてほしいこと。
- ③ 避難する時の約束の「おかしも」の合言葉の確認。「お」おさない「か」かけない

- 「し」しゃべらない、「も」もどらない。
- ④ いざという時に、行動にうつせるように毎日の生活の中で「話を聴くこと」「廊下は走らないこと」を心がけ、習慣づけてほしいこと。

政府の地震調査委員会が公表した地震発生確率値(令和5年1月13日)によると、南海トラフを震源とする地震(マグニチュード8~9)が発生する確率は、20年以内で60%程度40年以内で90%程度と示されています。

いつ地震が起きるのかは分かりませんが、備えをしておくことは必要であろうと考えます。学校でも定期的に訓練は行っていきますが、自分の命を自分で守るために、どのような行動をとることが必要なのか、ぜひ御家庭でも話題にしていただけたらと思います。

## やさしいどうして?

毎月、小学校時報という機関誌を読んでいます。その中に、「やさしいどうして?」の見方を子供との関わりの中で取り入れていくとよいという記事を目にしました。この「やさしいどうして?」は、ノートルダム清心女子大学の青山新吾准教授が生み出した造語とのこと。記事の中で、青山先生は、日常の子供たちの現状に対して、「どうしてそのように言ったのかな?」「どうしてそのようにしたのかな?」とその背景要因にまなざしを向けていくことを意識していくことで、子供の多様性や差異を大切にしていけるのではないかと説明されていました。子供の成長のために、叱責の「どうして」でなく、心に寄り添う優しい「どうして」を大切にしていきたいと思っています。